

建屋滞留水処理の進捗状況について (1,2号機間及び3,4号機間の連通部の切り離し達成)

2018年 9月 27日

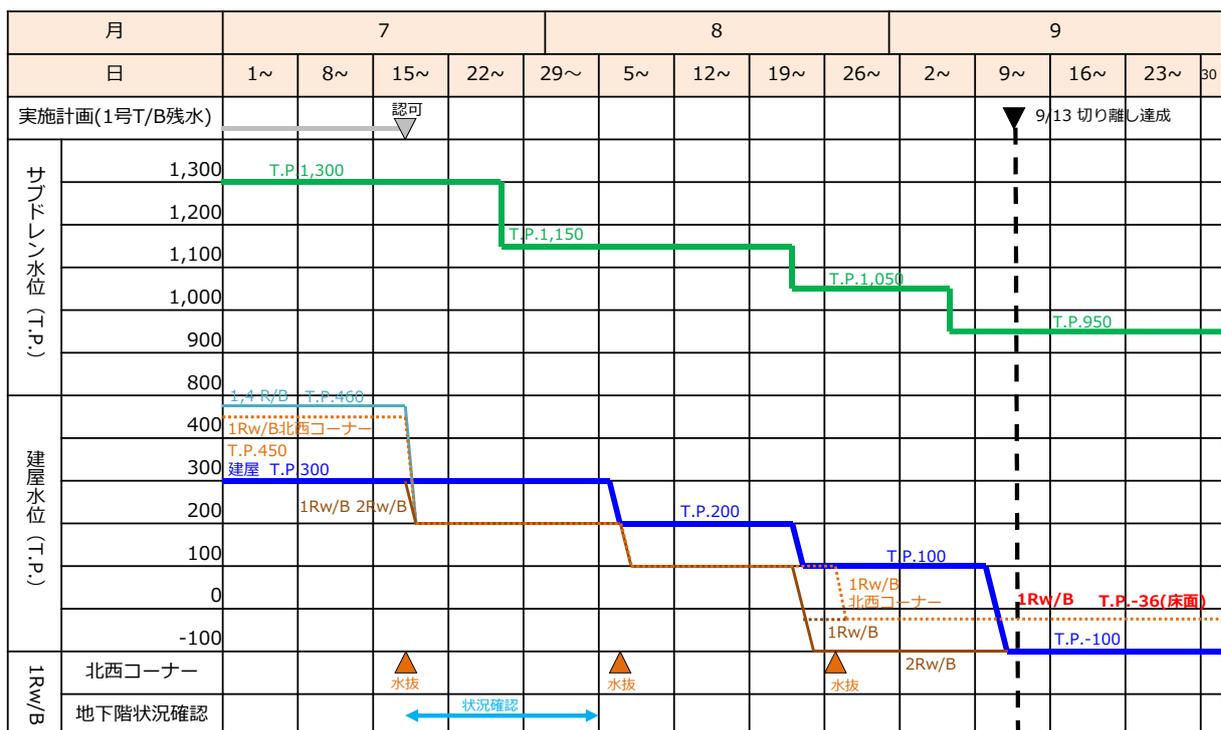
東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

秘密情報 目的外使用・複製・開示禁止 東京電力ホールディングス株式会社



1. 至近の建屋滞留水水位低下状況



1,2号機間及び3,4号機間の連通部の切り離し達成

- 中長期ロードマップでの2020年の滞留水処理完了※に向けて、原子炉建屋から他の建屋へ滞留水が流出しない状況を構築するため、建屋滞留水水位を順次引き下げ、2018年内に1,2号機間および3,4号機間の連通部を切り離すことを目指すとしてきた。
- 建屋滞留水水位を順次低下させてきた中で、1号機側、2号機側の滞留水水位が1号機廃棄物処理建屋の床面（T.P.-36）を下回り、安定的に水位を制御できていることを確認したことから、9月13日に1,2号機間の連通部について切り離し「達成」と判断した。
- 3,4号機間の連通部の切り離しは、2017年12月の水位低下時（タービン建屋最下階中間部の床面露出時）に達成しており、今回をもって、中長期ロードマップにおいて2018年内の目標である「1,2号機間および3,4号機間の滞留水連通部の切り離し」を達成した。
- 上記により、原子炉建屋から高濃度汚染水が他号機の建屋へ流出しない状況を構築した。

※循環注水を行っている1～3号機原子炉建屋以外の建屋の最下階床面露出

【1-2号機の建屋床面レベル、建屋間連通部及び滞留水の水位（2018.9.13現在）】

